

全体交流についての一考察 ～教育実習生研究授業事後研での意見交流から～

1 本時のめあてを読ませる

授業の初めに、指名して、板書された本時のめあてを読ませた。

一人残らず全員に本時のめあてを理解させるのなら、全員に声をそれて読ませてはどうか。

1回目 漢字が正しく読めているか確認する。

2回目 何が書いてあるか、理解して読みましょう。

2 児童が間違えた意見(答え)を言ってくれたことで、授業(学習内容)が深まった。

児童が間違えた答えを言ったことから、それを捉えて、授業を進めたことで学習内容が深まっていった。その取りあげ方がよかったという反省が出された。間違えから学ぶことは多い。どこで間違えたかを考えることで、次に間違えないようにするためにどうすればよいか、どこに気をつけなければならないかなどを学ぶことができる。一人が間違えたということは、他にも間違えた人がいる可能性がある。つまづきやすい所というものがあるものである。そこを取りあげたいものである。

今回はたまたま間違えた答えを言ってくれたことで授業が深まった。毎時間、必ず間違いの発表が出てくるような仕組みができれば、毎時間、子どもの学習は深まるはずである。その一つの答えが、学習課題に対して、分からない人、困っている人から発表させることである。学習課題について全体交流をするとき、「困っている人はいませんか？」という聞き方をするとよい。どこで困っているか、どこが分からないのか、どこまで分かっているのか、全員で確認しつつ、全員で意見交流をしながら、困っている人が解けるように進めていく。授業の最後には、「この人が言ってくれたおかげで、みんなよく分かるようになったね。」と、分からないことを分からないと言えたことを賞賛する。

分からないことを分からないと言える学級づくりが大切である。分かっている子だけが発言していく授業では、分からないことを分からないと言えないのである。

3 課題解決のための全体交流では、

①まず、「困っている人はいませんか？」からスタートする。この子が課題解決できるように全体交流を進める。

最後に、分からないことを言ってくれたことに対して、賞賛の言葉を学級全体にかける。

② 全体交流で教師が発する言葉は次の4つだけ。

- ・意見を深めていくとき、「意見をつなげて」
- ・意見を広げるとき、「他はどうですか。」
- ・子どもの声が小さいとき、「聞こえましたか。」
- ・子どもの発言の趣旨、意味が不明なとき、「先生は今の意見がよく分からないので、誰か言い換えて。」